

令和5年度
舞台芸術等総合支援事業
(劇場・音楽堂等機能強化総合支援)

自己点検報告書

団 体 名	公益財団法人びわ湖芸術文化財団	
施 設 名	滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール	
助 成 対 象 活 動 名	びわ湖ホール“つながる・つなげる”プロジェクト	
助 成 期 間	5	(年間)
内 定 額	51,316	(千円)

1. 事業概要

(1) 事業計画の概要

全体図（概念図）

ミッション

国際的水準の舞台芸術と人材を創造する劇場として、
活力ある滋賀県をつくる拠点となる

世界とつながる

プロデュースオペラ
声楽アンサンブル公演
ダンス・伝統芸能

未来につなげる

セミナー、研修
教育関連事業
(ホールの子ほか)

社会とつながる

県民参加型公演
福祉施設等での公演
びわ湖の春 音楽祭

+

施設設備の充実や資金獲得、声楽アンサンブル育成による経営基盤強化

アーティスト・演奏団体、他の劇場・音楽堂等との積極的な連携

最終アウトカム

1

日本のオペラ制作の中核を担う存在として、
県民の誇りにつながる劇場へ

2

“びわ湖”発の人材が日本の舞台芸術を支え、
発展につなげるサイクルの形成

3

『文化のインフラ網』のつながりで、
あらゆる人・場所から文化芸術が湧き出す滋賀へ

(2) 令和5年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	びわ湖ホール プロデュースオペラ リヒャルト・シュトラウス作曲『ばらの騎士』	令和6年3月2日、3日	指揮：阪 哲朗、演出：中村敬一、管弦楽：京都市交響楽団、出演：森谷真理、田崎尚美 ほか	目標値	2,473
		びわ湖ホール大ホール		実績値	2,900
2	ジルヴェスター・コンサート2023	令和5年12月31日	指揮：キンボー・イシイ、ピアノ：福間洸太郎、司会：桂米團治、出演：砂川涼子、清水徹太郎 ほか	目標値	1,497
		びわ湖ホール大ホール		実績値	1,438
3	名曲コンサート①「日本センチュリー交響楽団」 ②「田村響」	①令和5年7月17日 ②令和5年9月3日	①指揮：喜古恵理香、管弦楽：日本センチュリー交響楽団 ②ピアノ：田村 響	目標値	2,405
		①②びわ湖ホール大ホール		実績値	1,620
4	オハッド・ナハリン/パットシェバ舞踊団『MOMO』	令和6年2月4日 (中止)	イスラエル情勢の悪化に伴いパットシェバ舞踊団の来日が困難となったため、中止	目標値	615
		びわ湖ホール中ホール		実績値	中止
5	“スタインウェイ”ピノ”シリーズ vol.9 日本語と うた～言葉としての日本語、そして日本のうた～	令和5年9月2日	出演：河原忠之(ピアノ・構成・お話)、びわ湖ホール声楽アンサンブル・ソロ登録メンバー	目標値	255
		びわ湖ホール小ホール		実績値	213
6	大人の楽しみ方	①令和5年5月28日 ②令和6年1月24日	出演：①鈴木大介(ギター)、北村聡(バンドネオン) ②スヴェング(ハーモニカアンサンブル)	目標値	478
		①②びわ湖ホール小ホール		実績値	630
7	びわ湖ホール声楽アンサンブル定期公演	①令和5年4月22日 ②令和6年3月23日 ③令和6年3月24日	出演：①②③びわ湖ホール声楽アンサンブル、①田中信昭、中嶋 香、②③河原忠之(指揮・ピアノ)	目標値	976
		①②びわ湖ホール小ホール ③東京文化会館		実績値	1,016
8	びわ湖の春 音楽祭2023	令和5年4月29日、30日	出演：阪 哲朗(指揮)、びわ湖ホール声楽アンサンブル(合唱)、中嶋彰子、藤木大地 ほか	目標値	8,128
		びわ湖ホール大ホール、小ホールほか		実績値	7,023
9	阪 哲朗オペラセミナー	令和5年8月28日～31日	講師：阪 哲朗(指揮)、三ッ石潤司、西 聡美 受講者：公募により指揮3名、コレペティ5名を選出	目標値	442
		びわ湖ホール大ホール		実績値	580
10	林康子 声楽曲研修	令和5年7月21日～23日	講師：林 康子(ソプラノ) ピアノ：越知晴子 受講者：びわ湖ホール声楽アンサンブル14名	目標値	200
		びわ湖ホール小ホール		実績値	326
11	令和5年度 びわ湖ホール舞台技術研修 ～人材育成講座～	令和6年3月11日～16日	脚本：ごまのはえ 出演：公募により14名選出、びわ湖ホール声楽アンサンブル 舞台装置等：受講者	目標値	350・100
		びわ湖ホール大ホール、中ホール		実績値	450・95
12	地域連携オペラ(県内巡回)	令和5年9月12日～11月14日	出演：大川修司(指揮)、びわ湖ホール声楽アンサンブル ほか 演出：中村敬一	目標値	4,000
		県内小学校、文化施設		実績値	1,837

13	びわ湖ホール 音楽会へ出 かけよう！（ホールの子事 業）	令和5年6月1日～9 日	出演：阪 哲朗（指揮）、京都市交響 楽団（管弦楽）、宮里直樹（独唱）、 びわ湖ホール声楽アンサンブル	目標値	12,600
		びわ湖ホール大ホール		実績値	10,049
14	子どものための管弦楽教 室	令和6年3月17日 びわ湖ホール大ホー ル	出演：藤岡幸夫（指揮）、関西フィ ルハーモニー管弦楽団（管弦楽）、 船越亜弥、清水徹太郎 ほか	目標値	1,003
				実績値	1,204
15	気軽にクラシック	①令和5年7月31日 ②令和5年11月25日 ③令和6年1月21日 ④令和6年2月18日 ①②③④びわ湖ホー ル小ホール	出演：①石井楓子②森 季子、河原 忠之③大島弥州夫、橋本礼奈④吉川 日奈子、湯浅加奈子	目標値	1,084
				実績値	993
16	アンサンブルの楽しみ～ 演奏家のつどい～	令和5年11月4日 びわ湖ホール小ホー ル	出演：一般公募により10組選出、 大フィルプラスクインテット(ゲス トプレーヤー)、福見和彦（司会）	目標値	230
				実績値	219
17	ホスピタルコンサート	令和5年9月21日～ 12月23日 県内病院、福祉施設	出演：宮田春奈（ヴァイオリン）、 市川未来（ピアノ）、深田瑞穂・國 領愛歩・松本知暁（マリンバ）	目標値	200
				実績値	433
18	びわ湖ホール ロビーコ ンサート	令和5年7月2日～ 令和6年3月29日 びわ湖ホールメイ ンロビー	出演：びわ湖ホール声楽アンサン ブル、大川修司、關口康祐、植松さ やか、岡本佐紀子 ほか	目標値	1,200
				実績値	2,075
19	ふれあい音楽教室	令和6年1月11日～ 2月14日	出演：びわ湖ホール声楽アンサン ブル（各回2名）、ピアニスト1名	目標値	600
		県内小・中学校		実績値	1,322
20	学校巡回公演	令和5年5月9日～ 17日	出演：びわ湖ホール声楽アンサン ブル16名、指揮者1名、ピアニスト 1名	目標値	1,800
		県内小・中学校		実績値	1,402
21	各種講座（オペラ講座・ ワークショップ等）	令和5年4月23日～ 令和6年3月3日	講師：青山登志和、東条碩夫、岡田 暁生、中村敬一（演出家）、荒井雄 貴（舞台メディアクリエイター）	目標値	850
		びわ湖ホール大ホー ル、リハーサル室、 コラボしが21大会議 室		実績値	839
22	バックステージツアー 「びわ湖ホールまるっと ステージツアー」	令和5年8月23日、 令和6年1月27日	舞台全般の案内・舞台設備操作、楽 屋エリアの誘導・進行：びわ湖ホー ル職員	目標値	108
		びわ湖ホール大ホー ル		実績値	143

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>事業計画に必要な構成要素が有機的に連関し、当初の予定通りに事業が進められているか。</p> <p>「国際的水準の舞台芸術と人材を創造する劇場として、活力ある滋賀県をつくる拠点となる」ことをミッションに掲げ、国際的水準の舞台芸術の創造・発信や他の劇場・音楽堂、実演団体との連携により①「世界とつながる」、舞台芸術の創り手や継承者の育成・支援や次代の舞台芸術を支える観客の創造により②「未来につなげる」、誰もが文化芸術に親しめる場の提供や多様な主体がつながる文化芸術活動の促進により③「社会とつながる」の3つをビジョンとして事業を展開しました。</p> <p>令和5年度では、彩の国さいたま芸術劇場、北九州芸術劇場と共同でイスラエルのバットシェバ舞踊団を招聘して実施する事業が中東情勢の悪化に伴い来日が困難となり公演中止となったものの、その他の事業については中止等なく実施することが出来ました。①「世界とつながる」について、4月に芸術監督に就任した阪 哲朗が自らの音楽の原点という“ウィーン”を1年間のテーマに、1年の幕開けを飾る「びわ湖の春 音楽祭」や、びわ湖ホールが総力をあげて制作する「プロデュースオペラ」などを展開し、県内外から多くの注目を集めました。②「未来につなげる」では、「オペラセミナー」「林康子 声楽曲研修」「舞台技術研修」というびわ湖ホールが持つ資源を活かしたびわ湖ホールならではの3つの人材育成事業を実施し、次代の舞台芸術を担う人材の育成に取り組みました。③「社会とつながる」では、「ホスピタルコンサート」「ロビーコンサート」「学校巡回公演」など、居住地域、年齢、障害の有無等、様々な事情を抱える人がその事情に関わらず舞台芸術に触れてもらえる場を提供しました。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> <p>【文化的意義】</p> <p>「プロデュースオペラ」において、技術的・体力的にも難曲と言われる『ばらの騎士』をキャスト・スタッフともにすべて日本人で新制作しました。日本を代表する歌手のみならず、びわ湖ホール声楽アンサンブル・ソロ登録メンバーもソリストとして配役して「大津だけでなく日本の宝」と感想をいただき、舞台美術、衣裳、照明などその上演水準の高さに好評をいただきました。</p> <p>【社会的意義】</p> <p>「県民が舞台芸術に親しむ機会を提供するとともに舞台芸術の振興および普及を図り、県民の文化の向上に資する」（滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールの設置および管理に関する条例より）ため、幅広い地域・世代の方に一流の舞台芸術に触れていただける機会を提供しました。「地域連携オペラ」では、ホールが所在する県南部地域以外の方にも高水準のオペラ公演に触れていただきました。地域の小学校のほか3つの県内公立文化施設で公演を行ったことで、各地域の舞台芸術への興味促進だけでなく、各施設の活性化にもつながりました。</p> <p>【経済的意義】</p> <p>「ジルヴェスター・コンサート」や「びわ湖の春 音楽祭」では地元の事業者にも協賛いただいて商品の提供や販売により公演を盛り上げていただき、県内外から来場された方に地元の物産を紹介する機会となりました。「気軽にクラシック」では廉価なチケット料金で通常より短い時間の公演を、「ロビーコンサート」ではどなたでも出入り自由なメインロビーで車いすやベビーカーの方も楽しんでいただける無料の公演を実施し、公演に興味はあるが難しそう、チケット料金がなくて手を出しづらいと感じる方にも来場いただきやすい舞台芸術に親しむ“入口”となる事業も展開しました。このような事業を1年を通じて展開することで県民の皆様にも「劇場がある暮らし」を身近に感じていただき、舞台芸術に触れることへの親しみを持っていただくことにつながっています。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成し、アウトカムの発現は可能か。

目標①国際的水準の舞台芸術の創造・発信

【指標 1】芸術監督が主導となる公演を年 5 事業以上実施→ 8 事業（達成※本助成対象外の 4 事業を含む）

【指標 2】来場者アンケートの「よかった」割合が 97%以上→96.9%（未達成）

【指標 3】SNS におけるインプレッション・リーチ数が年 780 万回。→816 万回（達成※びわ湖ホールとして）

目標②他の劇場との共同制作・共同招聘の積極的な実施

【指標 5】他の劇場等と協働・連携する事業を年 4 事業以上制作→ 5 事業（達成※本助成対象外の 3 事業を含む）

目標③観客の創造を通じた県内での舞台芸術振興

【指標 4】来場者数が前年度比 15%以上増→24%増（達成※貸館も含むすべて R4 139,068 人、R5 172,200 人）

【指標 7】義務教育期の子どもを対象とした事業の参加者数が年 15,000 人以上→17,918 人（達成※本助成対象外事業の 3,308 人を含む）

【指標 8】青少年（25 歳未満）の来場者数が年 3,000 人以上→3,012 人（達成※自主公演すべて）

目標④“びわ湖”発人材の発掘・育成

【指標 11】びわ湖ホール声楽アンサンブルに在籍した歴代の団員数の累計が前年+2 名以上→計 85 名・前年+4 名（達成）

【指標 12】びわ湖ホール声楽アンサンブルへの依頼公演が前年+2 公演以上→48 公演・前年比+7 公演（達成）

目標⑤多様な主体が参加できる場の形成

【指標 6】セミナー・ワークショップの受講者・聴講者が年 3,500 人以上→4,094 人（達成※本助成対象外事業の 1,639 人を含む）

目標⑥地域での公演の積極的な実施

【指標 9】アウトリーチ事業が年 60 公演以上→64 公演（達成※本助成対象外の 15 公演を含む）

【指標 10】アウトリーチ事業で年 7,300 人以上参加→8,575 人（達成※本助成対象外事業の 3,338 人を含む）

目標⑦外部資金（企業からの協賛金・助成金等）獲得による経営の安定化

【指標 13】びわ湖ホール友の会協賛、企業協賛が年 3,700 口 30,000 千円以上→2,983 口 28,500 千円（未達成）

【指標 14】民間団体からの助成金収入が年 17,500 千円以上→16,700 千円（未達成 ※本助成対象外事業分 13,200 千円分を含む ※「バットシェバ舞踊団」が中止でなければ 21,700 千円）

『日本のオペラ制作の中核を担う存在として、県民の誇りにつながる劇場へ』というアウトカム 1 の発現に向け、「ここに劇場があって良かったと思ってもらえる場所にしたい」という阪芸術監督の思いに沿い、自ら指揮する 8 事業を中心に国際レベルの公演制作に取り組みました。オペラは新制作の 4 事業（うち 3 事業は本助成対象外）を含む 6 事業 35 公演を実施し、滋賀県の文化力を強力に発信しました。びわ湖ホール声楽アンサンブルを卒団し、ソロ登録メンバーとして活動する団員は 70 名を超え、現役メンバー（14 名）とともにびわ湖ホールの創造活動を支えています。他県からを含む依頼公演数も年々増加しており、『“びわ湖”発の人材が日本の舞台芸術を支え、発展につなげるサイクルの形成』（アウトカム 2）の発現に着実に近づいています。アウトカム 3（『文化のインフラ網』のつながりで、あらゆる人・場所から文化芸術が湧き出す滋賀へ）については、外部資金獲得の目標は未達成となったものの、県内各地へのアウトリーチ事業の規模は順調に拡大しており、各地の公共ホールや学校等と協働のもと、県全体の文化芸術活動促進に貢献できていると考えます。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

2月に実施予定だった「バットシェバ舞踊団」の公演については、イスラエル情勢の悪化に伴いバットシェバ舞踊団の来日が困難となったため、共同で事業を進めていた彩の国さいたま芸術劇場、北九州芸術劇場と協議し、11月に公演中止を発表しました。このほかに、「音楽会へ出かけよう！（ホールの子事業）」では台風の影響で一部学校が参加できなくなりました。また、「ふれあい音楽教室」では大雪による休校で急遽別日に振り替えて実施しました。いずれも台風、大雪等悪天候の影響が予想される時期でしたが、学校や教育委員会、県の担当課と他の学校行事等も考慮したうえで実施時期を決定しており、適切な判断だったと考えます。「林康子 声楽曲研修」は要望時には1月の実施を予定していましたが、講師として招いた林康子氏（ソプラノ）との日程調整により、7月に前倒して実施することとなりました。これにより、受講者であるびわ湖ホール声楽アンサンブルのメンバーにとっては年度の早い段階に実施できたことで彼らが出演する公演のほとんどより前に世界的プリマドンナと呼ばれる林氏から指導の機会を得て、学んだメソッドを後の公演に活かすことが出来ました。昨年度まで色濃く残っていた新型コロナウイルス感染症の影響は令和5年度にはほとんどなく、観客参加の合唱や「ロビーコンサート」など、コロナ前以来の再開を喜ぶ声が多く聞かれました。「各種講座」の日程は、公演に先立って演出の意図を知り、作品への理解を深めるなどして期待感を高めて観客育成につなげることを目的に、講師と最適な実施時期を調整するため要望時には調整中としており、一部「プレトーク・マチネ」は調整がつかず実施を取りやめましたが、その他の講座・ワークショップでは「公演の見方が豊かになった」「これを機に公演を観てみようと思った」と感想をいただくなど本公演の盛り上がりにつながる成果をあげました。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

令和5年度の要望比は、「バットシェバ舞踊団」の中止も影響し、全体で77.63%でした。事業ごとに見ると乖離幅の大きな事業もありますが、理由として実演舞台芸術を取り巻く予算環境が年々厳しくなる中、事業実施の中でより経費の圧縮に努めたこと、コロナ禍の終息により感染症対策用の検査費用が不要となったことなどがあげられます。また、「地域連携オペラ」では、小学校や地域の文化施設自らの事業との調整により、結果的に要望時に想定していた公演数から半数近く減少したため、事業費が大きく減少することとなりました。反対に、「ふれあい音楽教室」では想定の数以上の授業を実施し、事業費も増大しました。いずれも実施数が学校等からの希望数に左右される事業ですが、これまでの実績を踏まえてより精度の高い積算に努めます。「びわ湖ホール声楽アンサンブル定期公演」では、要望時に未定だった第78回公演と東京公演の演目を演奏会形式のオペラとしたことにより当初の想定よりも公演時間が長くなったことで会場費が増大し、また稽古を充実させるため指導者への謝金が追加で必要になったことから経費が大きくなりました。一方で、「プロデュースオペラ」では4年ぶりに本格的な舞台上演となり、令和4年度に比べて決算ベースで2,500万円以上の経費増となりましたが、要望比は88%と1億円規模の大きな事業ながらこれまでの実績や経験から適切な積算ができていたと考えます。舞台上演は、稽古回数を減らしてコロナ禍の密を避けるため令和2年度から令和4年度に採用した「セミ・ステージ形式」に比べて事業費が大きくなりますが、キャスト・スタッフをすべて日本人で制作するなど事業費の抑制に努めました。開館当初からオペラ制作を続けるびわ湖ホールの力を最大限に発揮できる舞台上演により、公演後のアンケートにて「久しぶりにグランドオペラを観たという満足感に浸っている」「どこに出しても遜色のない細部まで説得力のある公演だった」と非常に高い評価をいただきました。令和5年度は5年間の事業計画の1年目であることから、今年度の実績を踏まえ、次年度以降もより効率的な事業の執行に努めていきます。

(4) 創造性

自己評価

事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性に優れている（と認められる）か。

びわ湖ホール開館の年に設立したびわ湖ホール声楽アンサンブルは、全国から厳しいオーディションを経て選ばれた満 30 歳以下の若手声楽家で構成される日本初の公共ホール専属の声楽家集団です。びわ湖ホールの“創造活動の核”であり、現役だけでなく、卒業したメンバーも「ソロ登録メンバー」としてびわ湖ホールの自主制作公演を支えるほか、国内外のコンサートやオペラに数多く出演するなど声楽家として幅広く活躍しています。

令和5年度は、オペラ公演や「定期公演」をはじめとする27の自主公演（うち17公演は本助成対象外）に加え、受託事業と依頼公演を合わせて県内外で62公演（本助成対象外）に出演しました。普及事業にも力を入れ、6日間12公演で1万人以上を大ホールに招待し、プロのオーケストラ演奏や声楽曲を鑑賞してもらう「音楽会へ出かけよう！（ホールの子事業）」、学校に向いて体育館や音楽室などより近い距離で歌を届ける「学校巡回公演」や「ふれあい音楽教室」により、県内の広い地域の児童・生徒にびわ湖ホール声楽アンサンブルの公演を体感してもらうことが出来ました。県や教育委員会と協働し、学校行事の一環として舞台芸術に触れて関心や理解を深め、びわ湖ホールや声楽アンサンブルに親しみを持ってもらうことで、将来の芸術家・観客の育成につながり、滋賀県の「文化力」向上に貢献しています。このほかにも県内各地でオペラ公演を行う「県内巡回オペラ」や入場無料・誰でも出入り自由な「ロビーコンサート」など地域に根差した数多くの公演を行い、普及事業全体としては70公演（本助成対象）に出演しました。このうち声楽アンサンブル・メンバーの人材育成事業として、プロの声楽家としてのスキルアップを図り実施した「林康子 声楽曲研修」では、世界的プリマドンナのソプラノ・林康子氏から世界で活躍するために必要な歌唱法を学びました。指導の様子は一般公開し、普段は見るのできないレッスン風景から、メンバーが成長していく様子を来場いただいた方にも観ていただくことで、声楽への理解を深めるとともにびわ湖ホール声楽アンサンブルにより親しみを持ってもらえることにもつながっています（独創性）。こういった人材育成の成果は着実に表れており、びわ湖ホールが総力を挙げて国際レベルの舞台を創造する「プロデュースオペラ」では、令和5年度は『ばらの騎士』を上演しましたが、主要キャストにもびわ湖ホール声楽アンサンブル・ソロ登録メンバーを配役し、高評を得ることができました。名作でありながら演奏の高難度や出演者の多さにより国内では上演機会の少ない当作品において、一地方都市である滋賀県大津市にて地域にゆかりのあるキャストとともに高水準の舞台を一から創りあげたことは、地域および国内の舞台芸術の水準向上を強く後押ししたと考えます（先導性）。公演後のアンケートでは、「（ソロ登録メンバーに対し）主役のソリストに引けを取らないソロが聴けた」「びわ湖ホール声楽アンサンブルの卒業生が大勢出演していたのが嬉しかった」「近い将来、プロデュースオペラも招聘のゲストなしにびわ湖ホール声楽アンサンブルだけの公演を期待している」といった感想が見られ、地元を中心にファンとして長く応援してくださる方も多くなっていることがうかがえます。

また、平成27年度より前芸術監督である沼尻竜典を講師として開講していた「オペラ指揮者セミナー」を引き継ぎ、令和5年度から新たに芸術監督となった阪 哲朗が講師を務める「オペラセミナー」を開講しました。オペラ指揮者の育成を目指す従来の内容に加え、阪が最も重んじるコレペティトゥアの育成にも取り組む全国でも類例のないセミナーとなり（新規性）、人材不足が叫ばれながらも実践的に学ぶ機会の少ないコレペティトゥアやオペラ指揮者を目指す若手音楽家にとって、非常に貴重な機会を提供しました。指導の様子を一般にも公開したところ聴講者からは、受講者に対して「指導が厳しすぎる」との感想があるほどつづさに指導が入り、今後プロとして日本のオペラ界を支える人材の育成に寄与していると考えます。受講生8名のうち3名は「プロデュースオペラ」などその後の事業に音楽スタッフとしてかかわっており、びわ湖ホールとしても新たな人的つながりを得ることが出来ました。

自己評価

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっている（と認められる）か。

「プロデュースオペラ」では、日本人のキャスト・スタッフのみで難曲『ばらの騎士』の舞台上演を成し遂げたこと、またその質の高さに「ダブルキャストはすべて日本人。スタッフにも外国勢はいない。純国産のステージで、ワルツを含め、ウィーンの香りの立ちのぼるオペラに新体制でどうアプローチするかが関心事だったが、今のオペラ界の趨勢に過剰にこだわらず、基本に立ち返り、着実な地元密着型オペラに徹する大いに意義深い上演となった。」（（評・音楽）びわ湖ホール「ばらの騎士」経験が息づく、純国産オペラ 朝日新聞夕刊3月7日（長木誠司／音楽評論家）より）、「ハンガリー＝オーストリア二重帝国末期の爛熟した世界観こそ無かったが、それは恐らく世界中のどこにも期待できない「失われた世界」なのだろう。この1点を度外視すれば、最上最美の《ばらの騎士》を、この日の聴衆は堪能できた。」（3月2日びわ湖ホール大ホールR. シュトラウス：歌劇《ばらの騎士》 モーストリークラシック5月号（国土潤一／音楽評論家）より）との評をいただきました。公演後のアンケートでも「びわ湖ホール制作のオペラとして大成功であるだけでなく、日本のオペラ上演史上でも最高の部類ではないか。これを日本人スタッフだけで成し遂げたことに、滋賀県という地方の実力を世界に示した意義がある」「国内外でばらの騎士を20回以上観て来たが、稀に見る高いレベルの公演だった」と大変好評をいただき、「2日だけの公演ではもったいない」、「DVDにしてほしい」といった声も多く聞かれました。公演にはNHK（BS）の収録が入り、6月に全幕放送されるなど、地方のオペラ制作の中核を担う存在として高い評価をいただいているものと考えます。

また、子どもたちが生の音楽に触れ、文化芸術を愛する豊かな心を育むことを目的として子ども向け事業も数多く展開していることで、「滋賀は音楽に力を入れていると思う。とってもいい事」（アンケートより）と評価をいただいています。学校等向けの普及事業に加えて公演事業としても、未就学児も入場できる「びわ湖の春 音楽祭」や「子どものための管弦楽教室」のほか、「名曲コンサート」ではピアノ公演においてシアターメイツ（6歳以上18歳以下の会員制度）会員の無料招待を実施しました。アンケートでは「いろいろなことを知れた」「ピアノをがんばりたい」「去年も聴き、子どもはそれ以来楽器のことや指揮のことに興味がふくらんでいる」と感想をいただくなど子どもたちの文化芸術への興味関心を高めることに貢献できていると言えます。「また来たい」という声は子どもたちからだけでなく大人からも多くいただいております。ある保護者からは「子どもがいるとなかなかコンサートに行けないのですごく嬉しく幸せな時間だった」と感想をいただきました。家族で共通の音楽体験ができる事業はこのほかにも実施しています。県内の児童・生徒をホールに招待する「音楽会へ出かけよう！（ホールの子事業）」は一般には非公開の事業ですが、令和5年度には初めて一般の方も来場いただける有料の一般公演（本助成対象外）も実施しました。コロナや台風の影響等で事業に参加できなかった方、県外の方、事業がなかった大人世代にも同じ公演を体験していただくことができ、県内全ての生徒・児童に舞台芸術に直接触れる機会を提供する滋賀県とびわ湖ホールの取組を広く知っていただくことが出来ました。

これらの事業実施を経て、来場者から「びわ湖ホールが近くにあるのが嬉しく誇らしくなった」との声がいただけたことは、事業計画の最終アウトカムの一つとして設定する『日本のオペラ制作の中核を担う存在として、県民の誇りにつながる劇場へ』の達成に大きく近づく成果だと考えます。

びわ湖ホール声楽アンサンブルにおいては、バスの市川敏雅が第92回日本音楽コンクール声楽部門に入選したほか、ソロ登録メンバーの清水徹太郎（テノール）が京都府文化賞奨励賞を受賞しました。ホール専属の歌手として数多くの公演に出演し、また日本を代表する一流の指導者・アーティストとの豊富な共演経験や人材育成事業により、彼らの声楽家としてのステップアップを後押ししました。

(5) 持続性

自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

“創造活動の核”であるびわ湖ホール声楽アンサンブルを軸とした多彩なジャンルの公演事業や普及事業の継続的な実施、ホールの資源を活かした人材養成事業と地域の団体や他館との協働による、事業実施を支える人材のスキルアップにより、より効果的・効率的かつ、多くの方にホールに繰り返し来場したいと感じていただける公演制作のため以下のとおり事業展開に努めており、びわ湖ホールだけでなく地域の舞台芸術の持続的な発展につながっていくと考えます。

	Plan	Do	Check	Action
事業運営	<ul style="list-style-type: none"> びわ湖ホール声楽アンサンブルを核とした公演計画 多彩なジャンルでの事業展開 	<ul style="list-style-type: none"> 高水準の公演制作 関連公演、講座等の実施 SNSも活用した積極的な広報活動 	<ul style="list-style-type: none"> 公演後アンケート（紙、Web）の統計 予算、事業費の管理 SNS等広告効果の測定 	<ul style="list-style-type: none"> 連続性、関連性のある企画立案（リピート客増に向けた工夫） よりのめを絞った広報活動
経営戦略	<ul style="list-style-type: none"> 公的助成金、民間助成金の積極的活用 寄付金の募集 協賛金、賛助会員の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 助成金の申請 新規寄付者、協賛者の開拓 友の会会員やスポンサーの新規獲得 	<ul style="list-style-type: none"> 助成採択結果を踏まえた事業内容の見直し 寄付金、協賛金利用状況の管理 	<ul style="list-style-type: none"> より効率的な事業の実施 寄付、協賛の継続に繋がる価値サービスの創造
人事戦略	<ul style="list-style-type: none"> 将来を担う若者を育成する事業の創出 組織内外での知識、ノウハウの共有 	<ul style="list-style-type: none"> 声楽アンサンブル運営、公演研修の実施 提携大学のインターンシップ受け入れ 	<ul style="list-style-type: none"> 声楽アンサンブル内部オーディション 大学、学生からのフィードバック 	<ul style="list-style-type: none"> 講師、研修内容の見直し、更新 スタッフ、キャストのスキルアップ
ネットワーク構築	<ul style="list-style-type: none"> 地域に根差した事業計画 他館との共同制作、招聘公演の計画 	<ul style="list-style-type: none"> 地域団体との積極的コラボレーション 互いの強みを活かした公演実施 	<ul style="list-style-type: none"> 地域団体との相互フィードバック 公演評、執行状況等を含む成果の共有 	<ul style="list-style-type: none"> より地域の特色に寄り添った事業展開 自主事業へのノウハウ応用

持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

持続的なアウトカムの発現・定着には特に将来の舞台芸術を担う若い世代へのアプローチが重要と考え、ホールを所管する財団の運営方針としても「次世代を担う子供たちの創造性を育む取組の充実」があげられるところですが、「名曲コンサート」のオーケストラ公演において、「ホールの子事業で生の音楽に感動し、もう一度びわ湖ホールでオーケストラを聴きたいと言い続けていた息子と一緒に来た」という方がいるなど、これまで実施してきた普及事業の成果は確実に表れていると言えます。鑑賞の導入となる普及事業から、より本格的・高水準の公演に触れていただくことで、繰り返しホールに来場いただける観客の創造につながっていきます。経営戦略の面においては、令和5年度は民間助成の対象事業が中止となったことも関係し、アウトカム達成に向け設定した外部資金獲得の目標は達成できませんでした。芸術分野への助成規模は年々縮小しており予算環境は厳しくなる中ではありますが、経費の圧縮、ただし公演の質は落とさない効率的な事業実施と、コロナ禍に減少した友の会の会員数回復を目指して魅力ある公演事業の実施に取組み、持続的な事業運営に努めます。